

洋書輸入協会会報

VOL. 22
NO. 3

(通巻251号) 1988年3月

理事会報告

1月26日(火)

一、11月および12月分収支計算・予算対比表

12月4日および1月13日に開催された総務委員会で
の検討に基づく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認し
た。

二、退会

賛助会員アイ・アール・エム株式会社(代表者 河
本英三)の昨年12月31日付け退会を承認した。

賛助会員日本プレントイスホール株式会社(代表者
小野照男)の昨年12月31日付け退会を承認した。それ
に伴い、正会員(株)リージェンツ出版社(代表者 小野
照男)は次の通り変更される。株式会社プレントイス
・ホール/リージェンツ(サイモン・シュスター・ジャ
パン)

三、新年懇親会

参加者が219名(内招待者4名)あり、きわめて盛
会であったことが報告された。

四、63年度予算

12月4日の総務委員会で討論された予算編成の方針
(収入のバランス上でできるだけ節約する。実績主義では
なく、年度の活動方針にもとづいて編成する。)とそ
れについての総務委員会から各委員会あての文書を検

討し、承認した。

五、「会報」250号

本年2月号で「会報」は通巻250号となることが報
告された。

六、その他。

2月10日(水)

一、事務所の移転

事務所の移転について相武住宅から具体的な提案が
あったので、それについて討論し、当方でもさらに調
査を重ねた上次回理事会に同社社長の出席を要請し、
交渉を重ねることとした。

二、シンガポール出版業スタディー・ミッション

3月6日から約10日間訪日する代表団に対しては、
幹旋団体である日本貿易振興会と事務局長との会談
後、態度を決定することとした。

三、委員会

理事の増員に伴い、現在の委員会をどうするかにつ
いて検討することとした。

四、選挙管理委員会

総会にそなえて委員会の委嘱を急ぐこととなった。

五、その他。

理事会報告……………1	Book Review No.122……………8	総代理店ご案内……………9
1987(昭和62年)1~12月		
洋書輸入通関統計とその分析…2	書籍展示会のおしらせ……………9	広 告……………10
書物にかかわる歌〈その10〉……7	海外ニュース……………9	

1987（昭和62年）1～12月洋書輸入通関統計とその分析

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

大蔵省関税局から、1987（昭和62年）1～12月の日本貿易統計の輸入品別・国別表が発表されたので、洋書関係の数字をピックアップしていささかの分析を試みたい。

1 書籍・雑誌の輸入通関価額及び数量

（表1）1987年1～12月、書籍・雑誌輸入通関統計表（価額及び数量）

商品名	'86、1～12月		'87、1～12月			
	数量	価額	数量	前年比	価額	前年比
書 籍	千冊	百万円	千冊	%	百万円	%
	14,279	18,174	15,343	107	21,461	118
雑 誌	9,054	9,425	10,248	113	11,953	127
計	23,333	27,599	25,591	110	33,414	121

〔注1〕書籍は仮とじのもの、パンフレット及びリーフレットを含むが、マイクロフィルム類、新聞、絵本、楽譜、カレンダー、絵葉書などは含まない。

〔注2〕価格はCIF又はC&Fである。（以下同じ）

〔注3〕1982年6月までは、小額貨物は10万円以下含まれずとなっていたが、7月より20万円以下含まれずに変更されている。

〔注4〕書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

〔注5〕雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約一年遅れで計上されている。

（表2）1978～'87年書籍・雑誌輸入通関統計推移表（価額）

（単位 百万円）

暦 年	書 籍			雑 誌			計		
	額	前年比	指数	額	前年比	指数	額	前年比	指数
1978	23,023	98	100	8,650	105	100	31,673	100	100
'79	21,982	95	95	9,333	108	108	31,315	99	99
'80	23,018	105	100	11,049	118	128	34,067	109	107

'81	19,071	83	83	8,899	81	103	27,970	82	88
'82	21,285	112	92	11,052	124	128	32,337	116	102
'83	20,028	94	87	10,921	99	126	30,949	96	98
'84	20,874	104	91	10,707	98	124	31,581	102	100
'85	21,897	105	95	10,734	100	124	32,631	103	103
'86	18,174	83	79	9,425	88	109	27,599	85	87
'87	21,416	118	93	11,953	127	138	33,414	121	105

（表3）1985～'87年の上・下期毎書籍・雑誌の輸入通関統計推移表（価額）

（単位 百万円）

期 間	書 籍		雑 誌		計	
	価 額	前年比	価 額	前年比	価 額	前年比
'85、1～6月	11,475	102	7,732	103	19,207	103
7～12月	10,422	108	3,002	93	13,424	104
計	21,897	105	10,734	100	32,631	103
'86、1～6月	9,790	85	6,993	90	16,783	87
7～12月	8,384	80	2,432	81	10,861	81
計	18,174	83	9,425	88	27,599	85
'87、1～6月	9,943	102	9,630	138	19,573	117
7～12月	11,518	137	2,323	96	13,841	127
計	21,461	118	11,953	127	33,414	121

（表4）1983～'87年書籍・雑誌輸入通関統計推移表（数量）

（単位 千冊）

暦 年	書 籍		雑 誌		計	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
1983	13,794	94	7,734	108	21,528	98
'84	14,578	106	7,739	100	22,317	104
'85	15,964	110	8,636	112	24,600	110
'86	14,279	89	9,054	105	23,333	95
'87	15,343	107	10,248	113	25,591	110

（注）この数量には、文庫本から古本、バックナンバーなどまでを含むため、単年度としての実用には適さない。しかし長期的にはその傾向を見ることが出来る。

(表5) 1983～'87年書籍・雑誌単価推移表

商品名	'83	'84	'85	'86	'87	'87 前年比	'83:'87
	円	円	円	円	円	%	%
書 籍	1,452	1,432	1,372	1,273	1,399	110	96
雑 誌	1,412	1,384	1,243	1,041	1,166	112	83
計	1,438	1,415	1,326	1,183	1,306	110	91

(注) (表4)参照。この単価は単年度としては実用に適さない数量を基礎としているため、同様にこれも実用には適さない。しかし長期的傾向は見る事が出来る。

[分析]

(1) 書籍・雑誌の輸入額21%のアップについて

一見すると、円高にもかかわらず21%もアップして大きな成長のように思える。しかし一昨年の1986年1～12月の通関統計が前年比15%ダウンということを考えると、決して喜べる数字ではない。'87を'85と比較すると次の通り。

(表6)

(単位 百万円)

暦 年	書 籍	'85:'87	雑 誌	'85:'87	計	'85:'87
1985	21,897		10,734		32,631	
		%		%		%
'87	21,416	98	11,953	111	33,414	102

上記の通り'87は'86と比較してこそ21%のアップであるが、2年前の'85と比較すると僅か2%のアップにしかならない。即ち'87の21%アップは前年のダウンの回復分の他に、2%ばかりの少々の成長が加わったに過ぎないのである。

(2) 為替相場の変動による影響

主要輸入先各国の為替相場の変動を、それぞれの国からの書籍・雑誌輸入額の占める構成比によって加重平均してみると、'86は'85比年平均で18.4%の円高、'87は'86比5.7%の円高となっている。この2年続きの円高を通算すると23%の円高となり、輸出国側から見る限り、この2年で円高で23%、成長2%の合計25%の輸出増

と見る事が出来る。ただしこれはあくまでも外国側から見た場合の話で、日本側から考えると前述の通り2年間で2%の成長でしかない。

(3) 補正予算の影響

昭和62年度(1987)は、政府の緊急経済対策の一環として、7月24日補正予算が成立した。この中に国立諸機関の洋書購入費として約47億円が計上され、8月に主要図書館へ特別予算として配布された。この購入対象は洋書関係全般に及び、マイクロフィルム、フィッシュなども多く加えられている。(通関統計の書籍にはこのマイクロ類は含まれず、「写真用フィルムなど」に分類される。表18の注参照)。

そして昨年('87)の後半には、この特別予算の半分近くが入荷していると考えられる。その証拠に書籍の入荷は昭和53年('78)以来9年連続して7～12月の方が少なかったが、昨年はそれが逆転、7～12月の方が1～6月よりも16億円も多く入荷(表3参照)していて、前年同期比では実に37%の増、前々年比でも11%の増になっている。特別予算の影響ということが出来よう。

(4) 雑誌その他の定期刊行物

雑誌の'87は前年比27%アップ、前前年の'85比でも11%のアップを示し、10年前の'78比では38%のアップとなっている(表2参照)。書籍が前前年比で2%の減、10年前の'78比で7%の減という数字と比較すると、全体的に不振な中でも、雑誌の方が短期的にも長期的にも堅実な成長を示していることが分る。なお10年間で書籍・雑誌計が5%しか伸びていない(表2参照)ことは、'82年から、通関統計の輸入の対象が10万円以下の小額貨物含まずから、20万円以下含まずに訂正になっている(表1の注3参照)ための、それ以降の統計洩れを勘案する必要がある。

(5) 円高と総需要の関係

2年連続の円高と、洋書販売価格の随分の低落、'86の前年比15%の輸入減、'87の21%の増、'85:'87比で2%の増という通関統計の数字、この三者を勘案すると、円高と販売価格の低落は一旦は洋書需要を低落させるが、それは次第に回復すること、しかし決して日本の洋書総予算の範囲を超えないことなどを示している。

換言すれば、日本の洋書の総需要はほぼ一定している

ために、そして洋書の需要は団体予算への依存度が極めて高いために、洋書価格の低落は洋書総需要の増大とは結びつかず、総需要は総予算の範囲内で動いているといふことを示していると思われる。

2 主要国別通関実績

(表7) 1987、1～12月主要国別、書籍・雑誌別輸入通関統計表(価額)

(単位 百万円)

国名	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	7,812	107	36	4,587	107	38	12,399	107	37
英	5,779	132	27	2,049	181	17	7,828	143	24
西独	3,166	122	15	1,519	176	13	4,685	135	14
仏	836	148	4	522	110	4	1,358	131	4
スイス	701	154	3	475	138	4	1,176	147	4
蘭	1,032	129	5	1,777	137	15	2,809	134	8
伊	222	129	1	431	85	4	653	96	2
ソ連	70	101	0	51	100	0	121	101	0
香港	534	113	3	103	87	1	637	108	2
その他	1,309	95	6	439	125	4	1,748	101	5
計	21,461	118	100	11,953	127	100	33,414	121	100

(表8) 米国1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	9,224	92	46	5,378	99	49	14,602	95	47
'84	10,255	111	49	5,488	102	51	15,743	108	50
'85	9,806	96	45	5,695	104	53	15,501	98	48
'86	7,298	74	40	4,290	75	45	11,588	75	42
'87	7,812	107	36	4,587	107	38	12,399	107	37

(表9) 英国1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	3,590	87	18	1,235	70	11	4,825	82	16
'84	3,976	111	19	1,316	107	12	5,292	110	17
'85	4,577	115	21	1,190	90	11	5,767	109	18
'86	4,362	95	24	1,130	95	12	5,492	95	20
'87	5,779	132	27	2,049	181	17	7,828	143	23

(表10) 西独1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	2,916	95	15	935	101	9	3,851	96	12
'84	2,542	87	12	832	89	8	3,374	88	11
'85	2,929	115	13	847	102	8	3,776	112	12
'86	2,603	89	14	865	102	9	3,468	92	13
'87	3,166	122	15	1,519	176	13	4,685	135	14

(表11) フランス1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	589	97	3	446	98	4	1,035	98	3
'84	673	114	3	418	94	4	1,091	105	3
'85	628	93	3	428	102	4	1,056	97	3
'86	565	90	3	473	111	5	1,038	98	4
'87	836	148	4	522	110	4	1,358	131	4

(表12) スイス1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	515	87	2	564	158	5	1,079	113	4
'84	408	79	2	328	58	3	736	68	2
'85	467	114	2	304	93	3	771	105	2
'86	455	97	3	344	113	4	799	104	3
'87	701	154	3	475	138	4	1,176	147	4

(表13) オランダ1983～'87年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1983	935	96	5	1,330	106	12	2,265	102	7
'84	907	97	4	1,392	105	13	2,299	102	7
'85	953	105	4	1,098	79	10	2,051	89	6
'86	797	84	4	1,296	118	14	2,093	102	8
'87	1,032	129	5	1,777	137	15	2,809	134	8

〔分析〕

'87の主要6カ国の為替相場は、年平均の前年比でUS \$13.9%、Stg. £4%、F. FR 0.9%のそれぞれ円高であり、DM3.7%、S. FR3.5%、DGL3.9%のそれぞれ円安である。これを急激な円高の始まる前の'85と比較して、2年通算でそれぞれの国からの輸入額と対照すると次の通り。

(表14) 主要6カ国の1985比'87の2年通算輸入額の推移と為替相場変動の対照表

国 別	書籍・雑誌の輸入額計			'85：'87比の為替相場の変動	
	1985	1987	'85：'87比	通貨	円高・円安
米	15,501	12,399	80	US\$	39%の円高
英	5,767	7,828	136	Stg. £	23 "
西独	3,776	4,685	124	DM	1 "
仏	1,056	1,358	129	F. FR	9 "
スイス	771	1,176	153	S. FR	0.3 "
蘭	2,093	2,809	134	DGL	0.7 "
計	28,964	30,255	104		

この表を見れば分るように、為替相場はUS \$の大幅安で、英ポンドと仏フラン安がそれに続く。西独、スイス、蘭は横這いである。ところが、輸入額は米国のひとり減で、他はすべて上昇している。ことに英国は23%の円高にもかかわらず36%の輸入増と健闘している。これは何故であろうか。

それは表面的には米国のシェアの漸減、即ち'84には50%であったものが、'87には37%に落ち込んでいるように、US\$の値打の下落と共に出版産業が衰退しているように見える。

しかし一概にそうともいえまい。一つには出版社の一部には、強い通貨で表示するところがあり、US \$が下落しかけるとStg. £やDM表示に変更するところがある。次には米国の出版産業は、紙製品以外の形態への移行が進んでおり、プラスアルファの需要はその新形態のものに吸収されているためではなからうか。

更に付け加えると、'80には主要6カ国のうち米国以外の5カ国の書籍・雑誌の輸入通関統計が急増し、'81に大幅減少する現象があったので、また急増のあとに大幅減する可能性がなきにしもあらずということと、米国の出版社の離合集散があまりにも激しく、それがマイナス

要因になっているのではないかということである。杞憂であれば幸いである。

3 主要国以外の状況

(表15) 主要国以外で1987年1～12月に、書籍又は雑誌のいずれかで1,000万円以上輸入されている国の一覧表(価額)

(単位 百万円)					
国 名	書籍	雑誌	計	前年比	
韓 国	228	33	261	94	%
N. KOREA	41	3	44	28	
中 国	145	74	219	84	
台 湾	259	5	264	76	
シンガポール	266	43	309	216	
イ ン ド	24	3	27	36	
スエーデン	7	11	18	120	
デンマーク	23	77	100	132	
アイルランド	11	58	69	72	
ベルギー	46	2	48	107	
東 ド イ ツ	11	29	40	66	
ス ペ イ ン	32	0	32	139	
オーストリア	82	65	147	136	
カ ナ ダ	52	8	60	47	
オーストラリア	12	2	14	27	

(表16) 近隣6カ国からの1983～'87年書籍・雑誌合計輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)											
国 名	1983	前年比	'84	前年比	'85	前年比	'86	前年比	'87	前年比	'87構成比
韓 国	473	188	112	24	168	150	278	165	261	94	0.8
N・KOREA	147	196	146	99	220	151	157	71	44	28	0.1
中 国	251	86	308	123	205	67	261	127	219	84	0.7
台 湾	251	112	340	135	363	107	347	129	264	76	0.8
香 港	502	105	484	96	663	137	591	89	637	108	1.9
シンガポール	99	85	166	168	176	106	143	81	309	216	0.9
計	1,723	120	1,556	90	1,795	115	1,777	99	1,734	98	5.2

〔分析〕

主要6カ国以外の国の輸入の合計は、'87は3,195百万円で2%の増であるが、主要6カ国のシェアが90.5%に及んでいるので、その他の国のシェアは

9.5%しかない。'86は3,121百万円で11.2%のシェアを持っていたので、1.7%のシェア減である。即ち主要6カ国への書籍・雑誌の依存度は依然として非常に高い。近隣6カ国からの輸入も横這い（2%減）であるが、その中ではシンガポールの激増が目につく。

4 洋書関連商品の輸入通関統計

(表17) 書籍・雑誌に準ずる商品の1983～'87年輸入通関統計推移表（価額）

(単位 百万円)							
品 名	'83	'84	'85	'86	'87	'87 前年比	'83：'87
絵 本	537	403	419	282	365	% 129	% 68
新 聞	209	299	353	412	386	94	185
楽 譜	832	670	638	521	951	183	114
地図・海図	713	808	898	577	295	51	41
印刷書画	616	642	1,016	1,112	1,594	143	259
その他の印刷物	4,410	5,434	5,594	5,017	6,135	122	139
計	7,317	8,256	8,918	7,921	9,726	123	133

(注)○絵本は、幼児用の絵本及び習画本。

○楽譜は、手書きのもの、絵入りのもの及び製本したものを含む。

○地図・海図は、その他これらに類する地理学用・気象学用又は天文学用の図を含み、印刷したものである。

○その他の印刷物には、広告用印刷物（ポスターを含む）、広告・宣伝を目的とする物、各種の貿易用カタログ（書籍楽譜の出版者のリスト、芸術作品のカタログを含む）、観光案内、印刷されたカレンダーバック、紙又は板紙以外の材料に印刷されたカレンダー等々が含まれている。

(表18) その他の関連商品の1983～'87年輸入通関統計推移表（価額）

(単位 百万円)							
品 名	'83	'84	'85	'86	'87	'87 前年比	'83：'87
地 球 儀	204	152	177	66	180	% 273	% 88
絵葉書等	408	315	235	261	362	139	89
カレンダー	557	617	597	574	700	122	126
写 真	291	255	328	571	454	80	156
写真用フィルム等	722	1,003	988	750	794	106	110
計	2,182	2,342	2,325	2,222	2,490	112	114

(注)○地球儀は、天球儀を含み、印刷したものである。

○絵葉書は、クリスマスカードその他の絵入りカードを含み、印刷したものである。

○カレンダーは、紙製又は板紙製のもの。

○写真用フィルム（Code No. 37.05-000）は、写真用のプレート及びフィルム（現像したもの）であり、マイクロフィルム・マイクロフィッシュ・スライド等はこれに含まれ、映画用を除く。

(表19) 文献情報用のデータベース（磁気テープなど）を含む輸入品目番号の1986～'87輸入通関統計（価額）

(単位 百万円)			
品 目	1986	1987	前年比
記録用のテープ、線、シート、その他これらに類するもの（記録したもの）（その他のもの）	10,241	14,412	% 141

(注)上記の輸入統計品目番号は、92.12蓄音機用レコードその他の録音物及びこれに類する記録した物品（以下略）の中の319である。

〔分析〕

今年始めて、文献情報用のデータベースを含む商品番号をピックアップしてみた。しかしこれはその他のものを多く含んでおりあまり参考にはならない。今年から導入されたHS条約による品目表で分類される'88の結果を待ちたい。

5 書籍・雑誌の輸出通関統計（参考）

(表20) 1987年1～12月、書籍・雑誌輸出通関統計表（価額及び数量）と前年比

商品名	'86、1～12月		'87、1～12月			
	数 量	価 額	数 量	前年比	価額	前年比
(輸出)	千冊	百万円	千冊	%	百万円	%
書 籍	92,337	30,782	86,404	94	28,834	94
雑 誌	19,011	4,676	18,809	99	4,528	97
計	111,348	35,458	105,213	94	33,362	94

(表21) 1978～'87年書籍・雑誌の輸出通関統計推移表
(価額)

(単位 百万円)

暦年	書 籍			雑 誌			計		
	価 額	前年比	指数	価 額	前年比	指数	価 額	前年比	指数
1978	9,031	111	100	2,916	104	100	11,947	109	100
'79	9,325	103	103	3,955	136	136	13,280	111	111
'80	13,889	149	154	4,915	124	169	18,804	142	157
'81	16,523	119	183	5,645	115	194	22,168	118	186
'82	18,671	113	207	5,900	105	202	24,571	111	206
'83	20,623	110	228	5,358	91	184	25,981	106	217
'84	26,524	129	294	5,841	109	200	32,365	125	271
'85	33,357	126	369	5,973	102	205	39,330	122	329
'86	30,782	92	341	4,676	78	160	35,458	90	297
'87	28,834	94	319	4,528	97	155	33,362	94	279

(表22) 1987年1～12月の主要国別、書籍・雑誌別輸出
通関統計

(単位 百万円)

国 名	書 籍		雑 誌		計			
	価 額	前年比	価 額	前年比	価 額	前年比	構成比	
韓 国	1,025	68	476	103	1,501	77	4.5	%
中 国	796	55	477	88	1,273	64	0.2	%
台 湾	884	114	443	103	1,327	110	4.0	%
英 国	1,779	97	51	46	1,830	94	5.5	%
西 独	1,449	95	51	89	1,500	95	4.5	%
米 国	16,391	103	837	124	17,228	104	51.6	%
オーストラリア	792	64	1,490	91	2,282	79	6.8	%

(注) 上記は日本から年間10億円以上輸出されている7カ国で、この次には8位香港、9位カナダ、10位フランス、11位シンガポール、12位オランダ、13位スイス、14位ブラジルと続く。

(表23) 書籍・雑誌計の輸入と輸出との比率推移表

暦 年	'75(s50)	'84	'85	'86	'87
輸 入	78 %	49 %	45 %	44 %	50 %
輸 出	22	51	55	56	50

[分析]

とどまるところを知らぬ勢いで成長し、ついに洋書の輸入を和書の輸出が上廻ったのが'84であったが、その成長も'86の大幅円高で遂にストップし、'87は2年連続の減少となった。その結果輸入と輸出が丁度均衡している。

ついでながら日本の新聞の'87の輸出は、4,157万円と前年比49%の急成長である。しかし日本の企業の世界への進出を考えるとこの金額は少ないと思えるし、中でも米国へは一年間で6,000ナンバー、21.7万円と、いかに米国で日本の新聞の印刷が行われているにせよ少々気になる数字である。

(終)

書物にかかわる歌〈その10〉

隣室に書よむ子らの声きけば心に沁みて生きたかりけり

島木 赤彦

没後に刊行された「柿蔭集」に所収。「恙ありて」と題し、「2月13日帰国昼夜痛みて呻吟す。肉瘦せ骨たちにたつ」と詞書した一連中にある。3月27日胃癌での死に先立つ40日程の作である。この頃、赤彦の末子は15歳程であり、隣室で朗読していた書は中学のリーダーの類であったろうか。生きて子らの成長を見届けたいとの願いが、痛切に伝わってくる。

3月21日作〈我が家の犬はいづこへゆきぬらむ今宵も思ひいでて眠れる〉が、作者最期の歌となった。既に意識も彼、此岸をさ迷うような状態のなかで日常の些事とも思えることを淡々と詠っているのが、単なる一首の意味合いを超えてしみじみと心に訴えかけてくる。

〈信濃路はいつ春にならん夕づく日入りてしまらく黄なる空のいろ〉などの作にも通じる透徹した歌境は、やはり満49歳の同年で没した師の伊藤左千夫が、その晩年に左千夫翁と呼ばれていた事実とも併せて、昭和の長寿時代に生きる我々に複雑な感慨を呼び起こさせる。

A. A.

椎名 誠

『活字のサーカス』

岩波新書 1987年10月 ¥480

これは「重度の活字中毒者であることは間違いない。つねに何か読んでいる」著者の本をテーマにした随筆集ともいべき本である。それぞれタイトルをもつ16の文章からなる。『岩波新書の50年』（1988）には「何といっても亀井俊介『マリリン・モンロー』と椎名誠『活字のサーカス』が岩波新書の新しい展開として大反響を得ました。とくに後者は刷っても刷っても間に合わないといった状態がつづいて一気に一五万部を超えました」とある。私がこの2月の始めに買ったものは第八刷となっている。

私はこの著者の本を読んだことがなかったので、これほどよく売れている本もすぐには読もうとは思わなかった。ところが、大黒屋光太夫の跡をアリューシャン列島のアムチトカ島から追ひ、厳寒・酷暑のシベリアを旅した記録『シベリア追跡』（1987、小学館）がたいへん面白かったので、この本も読むことになったのである。

「ここ五、六年のあいだに世界三十数カ国ほどを旅行して歩いた」著者は旅行に出るにあたり、三日に一冊という割合で文庫本ないしは新書判を選ぶという。著者にとって文庫本十冊セット（つまり一ヶ月間の旅行）のミステリー三、SF二、時代歴史もの一、ノンフィクション二、エッセイ一、古典一の配分比は「必殺の黄金比」である（「カバンの底の黄金本」）。本書にはこうして選ばれた74冊（うち翻訳38冊）が紹介されている。私が見知らない本が大部分である。十年ほど前早川書房のSFばかり読んでいた著者はSFのことにくわしい。私はこの本で、SFは単なる科学空想小説ではなく、やはり環境汚染、原子爆実験等、自然界と人間社会とのアンバランスが重要なテーマであり、とくに核戦争の危機がSF作家を動かしていることを知った（「ポケミス之女」）。

島田覚夫『私は魔境に生きた』（ヒューマンドキュメント社）は「通例のジャンルでいえば戦記ものだが、同時にこれはすぐれたサバイバル・ドキュメントの書でもある。」1943年東部ニューギニアで米濠連合軍に追われ、ジャングルで十年間自給自足の生活をおくらざるを得なくなったもと兵士の記録である。著者はこの本の紹介にもっとも多くのページをさいているが、「もっと本格的に腹の底にズンとくるような落ち着いた気持で『日本人の戦争』ということについて真剣に考え込んでしまった」という著者の「この島田覚夫さんの、ずっしりと重い骨太痛快戦記が沢山売れるといいのだが」という思いがさせたのであろう（「極限生活の日常的問題」）。

この本は単なる本の紹介の本ではない。現代日本文化への批判の書でもある。わが国の「おせっかい文化」その究極のものが「教育」であるという批判（「おせっかいニッポン」）。「目下の雑誌、電波、街なかの話題ひとぐるみになっての、うまさ追究狂奔大集団的なだれ込み」の「酔狂なグルメ礼讃時代」への批判（「豊饒の行列」）。海運局や海上保安庁の「許可がない。」「前例がない。」「よって危険である」という「論理」への批判（「役人たちの安全」）。このすさまじい加速度的成長経済を背景に、日本人は大きくてリッチになった。しかしカッコよくなったか、というと、どうもぼくは、日本および日本人が大きくてリッチになった分だけ前よりむしろカッコ悪くなっているような気がしてならない」という現代日本論など、現代日本文化に対して鋭いメスもはいつている。

この本でいろいろな本について教えてもらった。沢野ひとしの挿絵もはいい、肩がこらずに気楽に読める本である。（M. I.）

書籍展示会のお知らせ——1988年

第1回ボゴタ国際書籍展示会

4月29日—5月9日

1st Bogota International Book Fair

ジュネーブ国際書籍展示会

5月11日—15日

Geneva International Fair for Books and Press

第33回ワルシャワ国際書籍展示会

5月18日—23日

33rd Warsaw International Book Fair

Palace of Culture and Science, Warsaw

第2回ダカール国際書籍・教育資料展示会

5月25日—30日

2nd Dakar International Trade Fair on Books and Educational Materials

第88回ABA大会・展示会

5月28日—31日

88th American Booksellers Association Convention and Trade Exhibit, Anaheim

第4回IASP (Int. Assoc. of Scholarly Publishers) 大会

6月1日—3日

4th IASP Conference

Helsinki, Finland

第18回ソフィア国際書籍展示会

6月2日—7日

18th Sofia International Book Fair

第23回IPA (Inter. Publishers Assoc.) 大会

23rd IPA Congress

London, England

第107回ALA大会

7月9日—12日

107th American Library Association Conference
New Orleans

海外ニュース

「ルフターハントの文学書は アルケーへ」

西ドイツのLuchterhand社は、この夏にオランダのKluwerグループに買収された。Luchterhand社は、法律や経済など専門書の出版でも有名だが、文学書、とくにギュンター・グラスの小説など現代ドイツ文学の代表的出版社としても知られている。

このLuchterhand社の作家たちは、オランダのKluwerの傘下に入ることに反対し、またKluwer側も本当に欲しいのは専門書部門であったから、文学部門は他に売ることには同意していた。その売り先がスイスのArche社に決った。このArche社は、小規模ながら質の高い文学書の出版を行ってきた。もとルフターハントの作家たちは、このアルケー社の小さなところが気に入っていたらしい。

(Publishers Weekly、12月4日号他より)

—紀伊國屋書店提供—

総代理店ご案内

東京洋書(株)

Tel. (03)561-9741

Fax. (03)561-9743

Commerce Clearing House, Inc.—USA

CCH Australia Limited—Australia, New Zealand & Papua New Guinea

CCH Canadian Limited—Canada

CCH Editions Limited—United Kingdom & Europe

CCH Asia Limited—Singapore & Malaysia

.....All publications

NEW



WORLD

Intellectual Property Report

世界中の知的所有権に関する広範囲な情報を提供

今日の競争市場において、知的所有権のあらゆる側面に注目し、毎月のように制定される新たな法律や諸問題に対応して行くことは不可欠となっております。

このレポートは、知的所有権に関する規則が急激に変化してきている状況や、その原因の詳細、同時にそれらが企業のR & Dおよび戦略に与える影響を分析し、以下の分野を網羅しております。

月刊誌 ¥87,500/年

- Patent
- Copyright
- Trademark
- Unfair Competition
- Trade Secrets
- Intellectual Property
(Semiconductor Chip Protection Act)

一方、WIPO、USPTOやEOP等の議事日程の状況、GATTにおいての知的所有権問題に関する取組み、また米国が国内外で知的所有権法にますます強硬な政策を取っているなど、将来これらに関してなにが予想されるのかを知ることが出来ます。

■1988年「円」価格は、版元の都合で変更されることがありますので、予めご了承下さい。

■お問い合わせは直接本社「マーケティング部」までお願いいたします。■カタログご請求下さい。

日本総代理店
USACO®

ユサコ株式会社

本社 〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号 堤ビル ☎(03) 502-6473(代表)
大阪営業所 〒530 大阪市北区堂島1丁目2番2号 日昭ビル ☎(06) 344-6624(代表)
名古屋営業所 〒461 名古屋市東区榑木町3丁目63番地 ☎(052)931-2601(代表)
筑波営業所 〒300 土浦市富士崎1丁目7番21号 和光ビル ☎(0298)23-1773(代表)

1988年3月 通巻第251号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901 FAX 271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329